## モデル事業からの展開 –防災をより身近で分かり易く。

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」からの展開として、以下の取り組みも行われました。

### 1 モデル事業広報プロジェクトの立ち上げ

事業紹介冊子作成、配付
事業広報誌「吾妻小防災辞典」作成、配付
吾妻小学校防災教育活動紹介冊子「吾妻小防災大辞典」作成

### 2 「吾妻小防災手帳の使い方」授業の実施

## モデル事業広報プロジェクト

吾妻小学校 PTA 広報委員会を中心として、以下の二つのことを目的に、「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクトを立ち上げ、広報活動を行ってきました。

1. モデル事業を広く周知し、保護者・地域のより多くの方々に参加してもらうことを通じ、防災意識・防災能力を高める。
2. 平成２１年度より始まった吾妻小防災教育活動の意義、意味合いを再確認・再認識し、継続させていく

なお、モデル事業広報プロジェクトとしての集大成が本冊子「吾妻小防災大辞典」です。

## ■「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」説明冊子の作成

モデル事業の開始に先立ち保護者・地域の方たちに事業を説明するための冊子を作成しました。

冊子はＡ３用紙を折りたたむ形で構成されています。

Open

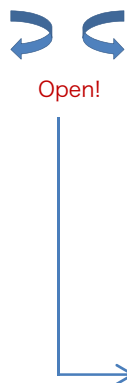
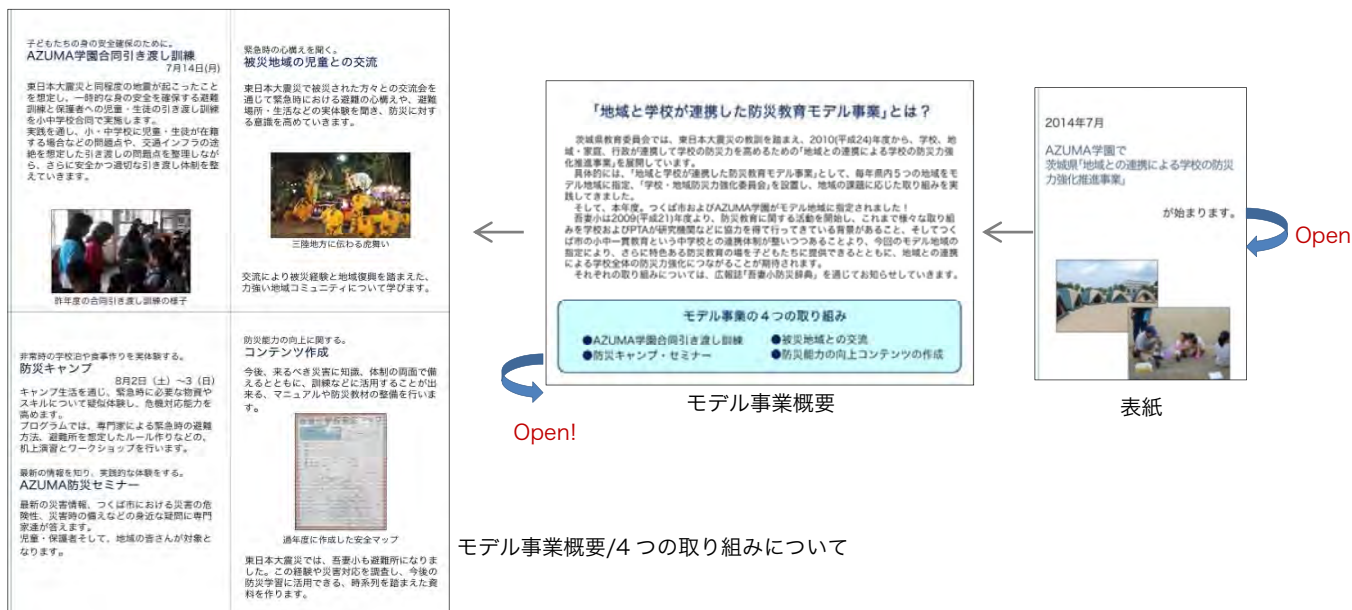
表紙

モデル事業概要

Open!

モデル事業概要/4 つの取り組みについて

Open!

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」説明冊子

折りたたまれたものを開いていくと、事業概要、４つの大きな取組、最後にこれまでの吾妻小防災活動の歴史がわかるようになっています(p１参照)。

■吾妻小防災辞典(月１回)の発行

モデル事業広報プロジェクトでは、学校や取り組みの中心となっている方々の協力を得ながら、今回の事業を保護者や地域のみなさまにお知らせするために「吾妻小防災辞典」を月刊で全８回、以下のようなテーマで発行しました。

具体的には、事業に関連するイベントの予告や報告をはじめとして、防災の研究を職業とされている保護者の方のコラム、吾妻地区の防災事情についてなどの取材記事を掲載してきました。

なお、「吾妻小学校の防災に関するあらゆることを伝えていきたい」という想いから、名称を「吾妻小防災辞典」としました。

Vol.1 特集：「地域との連携による学校の防災力強化推進事業」広報プロジェクト開始！
Vol.2 特集：AZUMA 学園　防災キャンプ 2014 へ、ようこそ。
Vol.3 特集：安全に帰る。安全に帰す。　AZUMA 学園合同引き渡し訓練を振り返る。
連載：吾妻小防災活動を支える　“お父さん”からお話を聴く。
ライフラインの備え#1 水 / 防災トリビア#1 非常口は緑？白？
Vol.4 特集：実は・・・、授業でも、防災教育、やってます。
連載：吾妻小防災活動を支える　“お父さん”からお話を聴く。
防災トリビア　＃２おかしも(ち？)
Vol.5 特集：あらためて。折り返しの時期に入ってきた
地域と学校が連携した防災教育モデル事業を知る。
連載：吾妻小防災活動を支える　“お父さん”からお話を聴く。
ライフラインの備え　＃２トイレが使えない。
新連載：広報委員が市役所危機管理課に聞きました！
＃１　吾妻地区ってどんなところ？
Vol.6 特集：「あの時…」をつないでいく。「ケースメソッド」から知る、感じる、学びとる。
連載：吾妻小防災活動を支える　“お父さん”からお話を聴く。
防災トリビア　＃３　避難所の広さ
連載：広報委員が市役所危機管理課に聞きました！
＃２ 情報はどうする？
Vol.7 特集：「地域みんなで防災を考えていく」ということ。
連載：吾妻小防災活動を支える　“お父さん”からお話を聴く。
ライフラインの備え　ライフライン＃３　電気
連載：広報委員が市役所危機管理課に聞きました！
＃３ 吾妻地区の避難所はどうなってるの？
Vol.8 特集：モデル事業も今月で終わりです。
広報委員が聞く：
校長先生、PTA 会長、地域防災コーディネーターのふりかえり
吾妻小防災検定

# 吾妻小防災辞典 vol.1
2014.7.17

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくばAZUMA学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校PTA広報委員会

## 「地域との連携による学校の防災力強化推進事業」広報プロジェクト開始！

すでに学校からお知らせが配布されていますが、「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」における今年度のモデル地域につくば市および吾妻小学校が茨城県教育委員会により指定されました。

吾妻小学校の防災に対する取り組みは東日本大震災以前より継続的に行われているとともに、防災に関わる研究機関や研究関係者とのつながりを持ちながら進められてきているという、吾妻小ならではの防災活動を展開しています。

広報委員会は、学校や取り組みの中心となっている方々の協力を得ながら、今回の事業を保護者のみなさまにお知らせするお手伝いをすることになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします！

## 知り、体験する「AZUMA防災セミナー」スタート！

７月１４日(月)、引き渡し訓練後に、第１回AZUMA防災セミナー「災害発生時に行政がしてくれること、してくれないこと」が開催され、つくば市危機管理課の担当者にお越し頂き、災害が発生した時の学区内の施設の位置づけや避難所についてお聞きしました。セミナーの様子の報告です。

まず、避難所の開設は、
**◎原則として市長が、避難所担当職員を派遣して開設。**
ただし、**◎突発的な災害発生時には施設管理者(学校職員など)または自主防災組織代表者が開設。**
また、避難所を運営する原則は、
**◎被災者の避難生活を基本とした「自主運営」**すなわち、自分達で避難所を作って行かなければなりません。

一方で、**◎食料・生活物資の提供等は行政の役割** として、つくば市では約２万人に３日間供給することを想定した分量の食料と水を備蓄をできるように整備中とのことです。(もともと備蓄がありましたが、東日本大震災と北条竜巻で使い切ってしまったため再整備中。)

なお、つくば市の人口は約２２万人ですので、一見少ないように感じますが、実際の災害では全市民が同時に避難民となることは、過大な想定となってしまうため、約一割をカバーできる体制としています。

また、小中学校が避難所となることを想定し、投光器、発電機、毛布、トイレパックなどを収納する備蓄倉庫を今年度中に市内全ての学校に配備する予定とのことです。

その他、災害時の情報伝達や避難所での高齢者・要介護者の対応など、幅広い内容を丁寧に説明して頂きました。

今回は、30 名近くのご参加を頂きました。本セミナーは全５回の予定で、災害に関する情報の提供のほか、実際に災害に遭遇した場合の行動を疑似体験する機会もあります。「その時」のために、参加しませんか？

## 第４回「防災キャンプ」が行われます。

2011(平成23)年度、震災の経験を踏まえ、学校に避難して宿泊することをより具体的にイメージした「防災キャンプ」をおやじの会により実施。以降毎年行われ、今年度で第４回を数えるまでになりました。

第２回防災キャンプでは、「市役所との情報伝達訓練」、そして昨年度の第３回防災キャンプでは小中合同で開催するなど、毎年バージョンアップしてきています。さて、今年はどうなるでしょう？まだまだ、受け付け中です。

**防災キャンプのスケジュール(予定)**

１日目
- 13：00　集合、オリエンテーション、班分け
- 13：30　班交流レクリエーション
- 14：30　防災講習〜テント設営
- 17：00　夕食準備
- 19：00　防災講習　夜の部
- 21：00　就寝準備、消灯・就寝

２日目
- 6：00　起床、ラジオ体操
- 7：00　朝食準備、朝食
- 8：00　片付け
- 9：00　解散

大地震が発生。小学校で「引き渡し」が行われるとともに、学校が「一時避難所」となるなど、地震発生後の比較的早い段階で求められる緊急対応や危機管理能力を、児童・保護者・先生方それぞれの立場から学びます。

夜となり、暗く、冷えてくる状況下で、学校にそのまま宿泊せざるを得なくなった場合に求められる心構えや技能をイメージトレーニングを通じて学びます。

夜間は断水を想定しての訓練。トイレ使用には水汲みの溜めた水のみ。

空き缶を使った炊飯

お知らせ

・7/14(月)の引き渡し訓練の様子が7/15の常陽新聞に掲載されました。
・吾妻小学校における、これまでの防災事業の取り組み、についてまとめた冊子を配布しました。是非ご覧下さい。

記事に関するお問い合わせ、ご提案はこちらまで！ 2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

今年で **4** 回目を迎える防災キャンプ。今年も小・中合同で開催されました。

# AZUMA 学園　防災キャンプ 2014 へ、ようこそ。

今年の見どころ！
(独)防災科学技術研究所の協力による防災講習/つくば市消防本部の協力による火災煙体験/オリエンテーリングのラジオ

## 8/2 1st day Start!

**12:30 受付開始　　13:00 オリエンテーション**
今年も始まりました！吾妻小学校４回目の防災キャンプ。昨年に引き続き、中学校と合同で実施です。１年生から８年生の児童・生徒約 50 人と保護者、先生方が参加しました。
オリエンテーションでは、様々なゲームを通して、各班のチームワークを強くしました。特に上級生はリーダーシップの醸成を図りました。

**14:00 防災講習（1～5 年生）**
「地震のゆれを体験する」というテーマのもと、(独) 防災科学技術研究所が開発した教材で、講習を行いました。東日本大震災のときの地震波を再現する「地震ザブトン」という名の振動台も登場！

**14:00 テント設営（6～8 年生）**
1～5 年生が防災講習に参加している間、リーダーとなる 6～8 年生が、夜を過ごすテントの設営を行いました。

**14:45 かき氷休憩**

炎天下での活動のため、水分補給にはかなり気を使いました。
家庭科室では、先生、お母さん方による夕食用の牛丼とフランクフルトの準備が着々と。

**15:15 火災煙体験**

今年はつくば市消防本部の協力により、火災煙体験をすることができました。
低姿勢、片手でテントをつたいながらの歩行。想像以上に何も見えず、数メートル先の出口が遠かった…。

**シャワー**

汗を流すために、プールのシャワーは使用可に。しかし、トイレは断水を想定し、汲みおいたプールの水を流すこととしました。

**16:45 夕食準備開始**

アルミ缶を改造してできたコンロに、もう一つのアルミ缶を飯盒(はんごう)替わりにして米を炊く「サバメシ」を体験。二人一組、燃料となる牛乳パックを切り刻み、火を絶やさないように、真剣にコンロを見守ります。

保護者は、防災ベンチを利用してフランクフルトを焼いたり、出来上がった牛丼の具を配ったり、の準備を。

**19:00 防災工作（1～5 年生）**
停電時に頼りにせざるを得ない、ロウソク。その存在を意識してもらうため、グラスキャンドルを製作しました。

**19:00 防災講習（6～8 年生）**
地震災害を想定した備えについての講義を聴き、東日本大震災が発生した当時を振り返り、今ならどうするか、そしてより大きな地震が来た場合の対応を話し合いました。

**20:30 防災レクレーション（オリエンテーリング）**

災害時の重要な情報源であるラジオとの出会い。
オリエンテーリングのポイントのヒントを、ラジオを通じて伝えました。子ども達は配布したラジオのチューニングを合わせ、校内のポイント探し。
配布されたラジオは、そのまま子どもたちへのプレゼントとなりました。

**22:15 消灯**

Good Night!

**全体解散後　リーダー研修会**

キャンプ終了後、6～8 年生は、リーダー研修会へ。
リーダーとは、フォロワーとは。
キャンプの成果から考えました。

## 8/3 2nd day Start!

**6:00 起床、テント乾燥作業**
起床は 6:00。でも、日の出とともに目が覚めてすでに活動中。
湿気を帯びたテントの底を乾燥させるために、ひっくり返します。

**6:30 ラジオ体操**
あまりラジオ体操になじみのない子どもたちにとって、快晴の空の下、Live 放送での体操はいい経験になったことでしょう。

**7:00 朝食(防災食)**
今年はマフィン、バナナ、ジュース。

一方、先生方、おやじの会の皆さんは、テント撤収作業中。

**8:00 スイカ割り**

さし入れのスイカで。
暑い中で食べるスイカの味は、格別！

**9:00 解散**

To be continued

〆はリーダーの８年生。
縦割りの班行動を通じて、上級生のリーダーシップ、下級生のフォロワーシップを培うことも、キャンプの大切な目的の一つでした。

先生方ありがとうございました！
おやじの会のみなさま、お疲れ様でした！
来年はどんなキャンプにするのですか???


吾妻小防災辞典　vol.2　2014.8.11

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会

# 吾妻小防災辞典

vol.3
2014.9.9

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会


## 安全に帰る。安全に帰す。 AZUMA 学園合同引き渡し訓練を振り返る。

7 月 14 日
12：50～

吾妻小学校・吾妻中学校合同での引き渡し訓練が行われました。今号の吾妻小防災辞典では、終了後に実施されたアンケートの結果をもとに、引き渡し訓練を振り返ります。

### 実施については、肯定的。

**だけど、引き渡しはなぜ中学校が先なの…**

■訓練の必要性については(回答 319 世帯)（必要だと）「思う」「どちらかといえば思う」を合わせ、8 割以上が肯定的な結果となりました。

小中合同引き渡し訓練の必要性
（小学校アンケート結果）

■「開始時期・開始・終了時刻」では約 7 割、「保護者への引き渡し方法」、「帰宅までスムーズに行われたか」については、9 割以上が適切に行われたと評価されました。

■「小中兄弟がいる場合、ガイドラインに沿って中学校から迎えに行きましたか？」については、「小学校から」という回答も多く見受けられ、「体力面・精神面で劣る小学生から引き取るようにしている。なぜ、ガイドラインは中学校からなのか知りたい」という意見もありました。

### 次につなげる。 よかったこと、見直しが必要なこと

アンケートで寄せられた意見からご紹介します。

**◎よかったこと**

- 小学校内の兄弟姉妹が下の学年で待機するのは、効率がよく、引き渡しがとてもスムーズだった。

**◎見直しが必要なこと**

- 名簿順で引き渡しをしたため、一部で混乱したクラスがありました。また、中学校とも異なっていました。

**◎こんなご意見も…**

- 暑いさなかの訓練は大変。入学・進級直後の年度はじめに実施するべきでは？？

東日本大震災の発生時、
被災した地域では、引き渡し訓練をしていなかったために、大変混乱した小学校もあります。
日頃の訓練は大事ですね。

### 引き渡しのおさらい！

でしょう？？

中学校まで
**小学生を連れて歩かなければ**
ならなくなる　　　　ためです。

**どんな時に？**

大人の引率なしで帰宅することが困難 or 危険
地震（震度５弱以上）、異常気象（ゲリラ豪雨、竜巻など）、不審者侵入、学校近隣での重大な事件・事故の発生

**引き渡しの進み方**

1　【先生】児童を安全な場所へ
（グランドが基本！）

2　【先生】「避難状況取りまとめ一覧表」作成

3　引き渡し開始
【保護者】「避難状況取りまとめ一覧表」にサイン

4　【先生→保護者】児童を直接引き渡し
（保護者が来ることができない場合は、「児童引き渡しカード」に記載された代理人に）

誰も行くことができない場合
保護者・代理人が来るまで学校が預かります。

**注意！**

引き渡しは、自発的に！

停電・通信インフラのダウンで、学校からの情報発信が不可能になるかもしれません。

学校には、徒歩で！

駐車スペースに限りがあること、渋滞を発生させること、そして渋滞に巻き込まれ、引き渡しが遅くなります。

---

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」

## Event Calendar

| 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

✔7/14　引き渡し訓練
第 1 回 AZUMA 防災セミナー

✔8/2-3　防災キャンプ

□9/19　第 2 回　AZUMA 防災セミナー「つくばで発生しうる災害を知る」

セミナー新企画を立案中！

□12 月　第 3 回　AZUMA 防災セミナー「災害の実体験を知る」

□12/18　第 4 回　AZUMA 防災セミナー「避難行動を疑似体験する」

被災地の小学校との交流

防災マップ作成

□1 月　第 5 回　AZUMA 防災セミナー「避難所開設を疑似体験する」

## 吾妻小防災活動を支える “お父さん”からお話を聴く。

吾妻小には、現在、防災の研究を職業とされている保護者がいらっしゃいます。お二人の専門家の“お父さん”から、防災に関する話題をご提供いただきます。

### ライフラインの備え　#1　水

庄司　学
（4 年・6 年　保護者）

東日本大震災では最大 187 の市町村で、210 万戸を超える断水が発生しました。津波で町が被害を受けたところは別として、一番、断水が長引いたところは茨城県の神栖市でした。5 月の上旬に断水が解消されました。利根川沿いの水郷地帯で地下水が豊富なため、井戸が活躍したとのこと。それを「お水お助け隊」という地元ボランティアで、水が届きにくい地域に配り、およそ 1 か月半の断水を乗り切ったそうです。大災害では必ず水は止まると考えて、ここでも日頃からの地域連携を紡いでおくことが大切であると感じました。また、twitter などのソーシャルメディアを通じた応急給水の情報が本当に役に立ちましたので、今からでも使えそうなものを確認しておくとよいでしょう。

### 防災トリビア　#1　非常口は緑？白？

長屋　和宏
（6 年　保護者）

非常口を示す標識は、大きく二種類あることをご存知ですか？

緑地の標識は、非常口の場所を示していて、「避難口誘導標識」と呼ばれます。

一方、白地の標識は、「通路誘導標識」と呼ばれ非常口の方向を示しています。すなわち、白地の標識のすぐ近くには非常口はありません。建物などからの避難で、外に出る場合は、気をつけましょう。

なお、人が駆けているマークは、日本人がデザインしたモノですが、現在では国際規格 ISO に組み込まれ、世界中で使われています。

このすぐ近くには非常口はありません。

次回の AZUMA 防災セミナー
### 『つくばで発生しうる災害を知る』

●地震：東日本大震災でのマンション被害・対応策
●河川災害：つくば近郊での歴史と先人の知恵

講師：
糸井川 栄一 氏（筑波大学 システム情報系 社会工学域教授）
飯野 光則 氏（国土交通省水管理・国土保全局 砂防部保全課 総合土砂企画官）

【開催日】
9/19（金）
15:30～17:00
吾妻小学校
会議室（図書館横）


記事に関するお問い合わせ、ご提案はこちらまで！吾妻小 PTA 広報委員会：2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

# 吾妻小防災辞典

vol.4
2014.10.16

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会

**vol.4 Contents**



セミナー報告　9/19　第２回 AZUMA 防災セミナー

## 「つくばで起こりうる災害を知る」

**今回の専門家は…**
国交省 砂防部保全課 総合土砂企画官　飯野光則氏
筑波大学 システム情報系 社会工学域教授　糸井川栄一氏

**■河川災害：つくば近郊での歴史と先人の知恵**（飯野氏）

・つくば～土浦～霞ヶ関にある桜川では、歴史的に何度も水害を起こしているが、土浦城と城下を守るために、江戸時代から各種の堤防が整備されてきた。
・その一つの「上坂田横堤」が昭和 61 年の水害でも被害の拡大を防いだが、現在は農道として使用されており堤防であることを認識している住民は少ない。
・また、水害を大規模化させず、あえて小さな被害を誘導する「二線堤・横堤」「霞堤」も整備されている。
・その他、つくば市北部桜川沿いの北太田地区には「輪中堤」が整備され、約６ヘクタール、56 戸の集落をぐるりと取り囲んで氾濫から地区を守っている。

**■地震：東日本大震災でのマンション被害・対応策**（糸井川氏）

・都市の治水は、通常１時間 50mm 程度の降水量を想定しているが、昨今のゲリラ豪雨などでは 100mm を越える数字が頻繁に観測されている。
・「今後 30 年で 70%」といった地震の発生確率は、同じ 30 年で「交通事故で負傷は 24%、癌などの病死は 10%以下」といった発生確率と比較すると、実感として捉えやすい。

## 実は…、授業でも、防災教育、やってます。

防災教育は、「生きる力」を育む、としてとりわけ東日本大震災の経験を踏まえて注目されていますが、子ども達は普段から防災につながる学習をしていますので紹介します。

防災に関する単元は、５学年に「自然災害を防ぐ(社会科)」があり、近年の災害を年表、地図で紹介し、ほぼ毎年、日本のどこかで災害が発生していることを学びます。また、災害を防ぐ様々な施設が整備されていることと、訓練やマップ作りを通して防災意識を高めることの重要性を学びます。防災意識の向上では、江戸時代に人々を津波から守った、「稲むらの火」で有名な濱口梧陵が紹介されています。

なお、"自然災害"は、一般的に「危機的な"自然現象"(台風、地震など)により、我々の"生活などへの影響"が生じること」と定義され、学校でも"自然現象"は理科、"生活などへの影響"は社会科、と分けて学びます。

"自然現象"は、雨や台風を５学年で、火山や地震を６学年で、また、国土の成り立ちを５～６学年を通じて学びます。また、"生活などへの影響"については、５学年で国土の特色(地形、気候)から様々な災害が発生している一方、その恩恵を受けていることも学びます。６学年で災害時の行政機関の役割として、過去の災害事例が紹介されています。↗

保護者の皆さんも、岐阜県海津市の「輪中」を学んだと思います。海津市では、古くから生活の場を堤防で囲む「輪中」を築くとともに、豊かな水を生かした農業が行われています。輪中は災害とつきあっていく防災の知恵の一つですが、実はつくば市内にもあります（セミナー報告参照）。

この他、災害情報がテレビなどで伝えられること(情報産業)、元寇で暴風雨などの影響で元軍が引き上げたこと(歴史)、外国の災害に日本の緊急援助隊が駆けつけた様子(国際社会)、などが紹介されています。さらに、４学年までの各教科でも、避難所、安全マップ、と言ったキーワードが随所に記されています。

このように、子ども達は、"災害""防災"の知識だけではなく、防災力を高め「防災文化」を形成し、大人になって社会の中心を担う、という長期的な視点をもって学習しています。

皆さんも、お子さんの教科書をのぞいてみてください。

ていぼう(輪中)とまちのようす(５学年社会科の教科書に加筆)

地域と学校が連携した防災教育モデル事業

## Event Calendar

| 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

✔7/14　引き渡し訓練
　第１回 AZUMA 防災セミナー
✔8/2-3　防災キャンプ
✔9/19　第２回　AZUMA 防災セミナー「つくばで発生しうる災害を知る」
NEW!　□10/19　**防災マップ探検隊「AED 捜索大会」**
□12/12　第３回　AZUMA 防災セミナー「災害の実体験を知る」
□12/13　被災地の学校関係者などとの交流を通じた地域交流会
□12/18　第４回　AZUMA 防災セミナー「避難行動を疑似体験する」
AZUMA 防災・安全マップ作成
□1月　第５回　AZUMA 防災セミナー「避難所開設を疑似体験する」

連載・吾妻小防災活動を支える"お父さん"からお話を聴く。

## 防災トリビア　＃２おかしも(ち?)

長屋　和宏（6 年　保護者）

子ども達の避難の合い言葉「**おかしも**」、知っていますか？
　**お**：お(押)さない　　**か**：か(駆)けない
　**し**：しゃべ(喋)らない　**も**：もど(戻)らない
もしもの時も焦らず、慎重な行動を取るように、の教えです。
この「おかしも」、地域や世代によって、異なっているようです。

まず、「**おはしも**」。
　"**か**"が"**は**"に変わっています。これは、小さな子どもが、"**はし**(走)らない"の方が判り易いと言うことで用いられています。↗

また、"**も**"の意味を"**も**(持)たない"。
　何も持たずに避難するように呼びかけています。

さらに、「おかしも**ち**」。
　最後の"**ち**"は、"**ち**(散)らばらない"または"**ち**か(近)よらない"。
　避難した後も勝手な行動をしないことを示しています。

保護者の皆さんはどれでしたか？？？

安全委員会＋地区委員会＋広報委員会、

## AZUMA 防災・安全マップ作成中！

モデル事業の一つ、「防災マップ」の作成が始まっています。

防災マップは、避難場所や飲料水が手に入る場所、AED の設置場所等、災害が発生した時のために知っておくべき場所が落とし込まれている地図で、広報委員会が作成しています。

この防災マップ、"防災"だけにはとどまりません。ここ数年 PTA ホームページ上でアップされている「安全マップ」との両面印刷となります！

安全委員会が取りまとめた学区内の危険個所を、地区委員会が実際にチェック…と、安全委員会、地区委員会、広報委員会が協力して作成しています。

完成は、来年の２月を予定しています。ご期待ください！

３年前に発行された安全マップ。

### 予告　防災マップ探検隊結成＆AED 捜索大会のお知らせ！

市の「総合防災マップ」に掲載されている AED は、市役所設置のもの。
その他の AED のありかを子どもたちと捜索し、もしもの時に使うことができるよう、設置場所を把握しておきます。

「防災マップ探検隊」活動とは？？？
子どもたちの目を通して、AZUMA 学園学区を中心とする、地域の「防災」の状況を把握する活動です。

**【開催日】**
10/19(日)
9:00～11:00
集合：吾妻小学校
飛び入り歓迎！

記事に関するお問い合わせ、ご提案はこちらまで！吾妻小 PTA 広報委員会：2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

# 吾妻小防災辞典

vol.5
2014.11.17

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会


## vol.5 Contents



「吾妻小防災辞典」バックナンバー
http://www.azuma-pta.com/
tokubetsu/h26/

**あらためて。**折り返しの時期に入ってきた

## 地域と学校が連携した防災教育モデル事業を知る。

本事業は、茨城県教育委員会が 2010(平成 24)年度より、東日本大震災の教訓を踏まえ「学校」「地域・家庭」「行政」が連携し学校の防災力を高めることを目的として実施しているもので、以下の２つの事業からなります。

**■「学校防災連絡会議」の設置**
県内全ての小中学校が、学校、地域、家庭、行政が連携し、市町村における教職員等を対象とした防災研修会の開催や、学校と地域が連携した避難訓練等を実施。
→吾妻小ではこれまで、保護者向けの講習会、ゲストティーチャーを被災地から招いて児童とともに学ぶ場を設ける、などの取り組みをしてきました。

**■「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」**
県内 5 地域で地域の特性を生かした防災教育のモデル事業を実施し、その成果をその他の地域に広めていく。
→今年度、つくば市および吾妻小学校がモデル地域に指定されています。

吾妻小では、以下の取り組み理念のもとモデル事業を推進しています。

**〇地域の旗振り役となる**
・つくば市中心地区は比較的歴史が浅く、吾妻小学校の歴史≒地域の歴史
・学校が地域の中核的役割を発揮(吾妻まつり、防犯自警団など)

**〇地域力の活用**
・研究機関と連携による、高い専門性と実務に即した防災教育

**〇継続性の重視**
・吾妻小学校(AZUMA 学園)では平成２１年度から防災教育を積極的に実施
・東日本大震災発生時もこれらの経験を活かした対応

モデル事業でのこれまでの取り組みは・・・

## 広報委員が聞きました！　#1　吾妻地区ってどんなところ？

今回の広報プロジェクトを担当する中で、素人である広報委員の中から出た素朴な疑問・質問を
つくば市危機管理課にインタビューしました。(担当：つくば市危機管理課　鬼塚氏、2014/10/8 実施)

**【吾妻地区の特徴】**
・高層の建物がある→竜巻など来にくい。
・新しい建物が多い→避難所となっている公共施設の方が古い。
・停電は起きにくい→東日本大震災の時もほとんど停電をしていない。停電をしても電気は比較的復旧が早い。

ちょっと安心？？

**よって避難は・・・**
・避難所に行く必要があるのは家屋の損傷が著しい人や家屋にとどまることが危険だと感じる人、もしくは帰宅困難者（築 30 年未満の建物については避難の必要はないと考えている）

**ただし、**
・学校はエアコンがない→季節によってはかなり過ごしにくい。
・自宅が電気・ガスが途絶えていれば、同じ地区にある避難所も同様。
・公共施設の耐震化は進み、つぶれることはないが、部材は落ちることはある。

よく考えれば当然ですね！

**結論は、**
⇒避難を考えるよりも自宅で過ごすことの方が現実的
市が行う支援としては「水」と「情報」が重要だと考えている。

次回は「情報」についてお伝えします！

まずは自宅で３日間過ごせる備えをする事は、吾妻地区も例外ではありませんね！

地域と学校が連携した防災教育モデル事業

## Event Calendar

7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月

✔7/14　引き渡し訓練
第１回 AZUMA 防災セミナー
✔8/2-3　防災キャンプ
✔9/19　第２回　AZUMA 防災セミナー「つくばで発生しうる災害を知る」
✔10/19　防災マップ探検隊「AED 捜索大会」
□12/12　第３回　AZUMA 防災セミナー「災害の実体験を知る」
□12/13　被災地の学校関係者などとの交流を通じた地域交流会
□12/18　第４回　AZUMA 防災セミナー「避難行動を疑似体験する」
AZUMA 防災・安全マップ作成
□1 月　第５回　AZUMA 防災セミナー「避難所開設を疑似体験する」

### 連載・吾妻小防災活動を支える"お父さん"からお話を聴く。

## ライフラインの備え　#2 トイレが使えない。　庄司 学

（4 年・6 年　保護者）

東日本大震災では、下水道の支障でも本当に困りました。汚水桝などの宅内の排水設備、公共の道路に埋設されている管路や人孔（マンホール）、そして、ポンプ場や処理場等が広範囲にわたって被害を受けました。中でも茨城県内の液状化による管路の被害は甚大で、何故、これ程までひどく壊れてしまったのか、液状化の発生原因を含めて、科学的にまだ十分に説明できていません。↗

この結果、わかりやすい例では、トイレが長い間、使えなくなりました。例えば、県内の稲敷市や鹿嶋市では、使用制限解除あるいは仮復旧までに、およそ 30 日から 40 日以上もかかりました。そのため、校庭等の広い敷地の下に、災害時に活用できるような下水直結式仮設トイレを整備する計画が横浜市等の自治体で進められています。トイレの耐震化の面からも、学校が地域に開かれたかたちで結びつきを深めていく方向に、社会のシステムは現在、動いています。

報告

## 防災マップ探検隊結成＆AED 捜索大会開催！

10 月 19 日(日曜日)、快晴の空の下、「防災マップ探検隊＆AED 捜索大会」が行われました。

市の「総合防災マップ」に掲載されている AED は、市役所設置のもの。その他店舗や事業所等に設置されている AED のありかを把握し、もしもの時に使うことができるよう、子どもたちと設置場所を捜索しました。参加した子どもたちからは、「こんな場所にも AED があるね」という驚きの声が上がる一方、「せっかく AED を置いているのに、このステッカーの位置だと判らないよね」という意見が出ていました。

また、防災マップへの掲載協力を申し出て下さった事業者からも、「自分達も場所を認識していませんでした。もっと分かり易い場所に設置した方が良いですね」という、声が聞かれました。

## 予告　DECEMBER EVENT LIST　12 月は防災関連のイベントがたくさん！

**12/12 FRI** 第３回　AZUMA 防災セミナー
**「災害の実体験を知る」**
東日本大震災で地域対応および学校・避難所対応に関わった方の講演
講師：小原 裕毅氏、佐藤 吉孝氏
(岩手県山田町立山田南小学校 PTA)

**13 SAT** 地域交流会
**「吾妻地区の方と学校を繋げる」**
東日本大震災の被災地域の方との交流会を通じた、力強い吾妻地区コミュニティを育むきっかけづくり
岩手県郷土芸能「虎舞」鑑賞
(岩手県立釜石商工高等学校生による演舞)

**18 THU** 第４回　AZUMA 防災セミナー
**「避難行動を疑似体験する」**
ゲームを通じた災害時行動、避難行動に関する訓練
講師：太田 尚孝氏
(筑波大学システム情報系)

皆さんのご参加お待ちしています！

記事に関するお問い合わせ、ご提案はこちらまで！吾妻小 PTA 広報委員会：2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

# 吾妻小防災辞典

vol.6
2014.12.18

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会


## vol.6 Contents



「あの時…」をつないでいく。

## 「ケースメソッド」から知る、感じる、学びとる。

2011.3.11 の経験を、防災意識の向上へとつなげていく。そのための素材となる「ケースメソッド」の作成が進んでいます。

東日本大震災発生時の吾妻小学校、そして、第３回 AZUMA 防災セミナーで紹介された岩手県山田町立山田南小学校の学校関係者にヒアリングし、それぞれの出来事を、物語として再構築したものがケースメソッドです。

*当時、先生、保護者、そして子どもが何を考え、どう動いたのか。*

吾妻小学校版の一部をご紹介いたします。

**見慣れぬ人々**

沼は、児童の保護者への引き渡しが進む中、明らかに保護者ではなく、学校になじみのなさそうな人たちの存在に気がついた。声をかけてみると「つくば駅から来た」と言う。激しい揺れが襲った直後、つくばエクスプレスは臨時運休となり、間もなくつくば駅も閉鎖されたとのことだった。

日が傾き、薄暗くなる中もつくば駅方面から吾妻小に来る避難者は続々と増え続けた。彼らは、東京方面からの通勤や筑波山に観光に、つくばエクスプレスを利用していた人々。いわゆる「帰宅困難者」だった。避難者は最大時には、７００名を超え、２１の教室に収容した。

東日本大震災における小学校の対応

（つくば市立吾妻小学校）

概要

ケースメソッド　【case method】とは「事例研究」という意味ですが、２つの物語を通して、震災時を思い出したり、疑似体験したりする中で、防災に対する様々な学び、気づきが読み手の方にあることが期待されます。また、災害を想定した「図上訓練」のシナリオや、災害時の判断力を養うための教材としての発展的な活用も考えられています。

## 広報委員が聞きました！　#2　情報はどうする？

今回の広報プロジェクトを担当する中で、素人である広報委員の中から出た素朴な疑問・質問をつくば市危機管理課にインタビューしました。（担当：つくば市危機管理課　鬼塚氏、2014/10/8 実施）

**※ここでは『情報』＝つくば市からの物資や水の給水情報を指しています。**

**いつから出すの？**

→だいたい半日後。なぜなら直後は地震の規模の情報程度しか配信する内容がない。

早い？遅い？

**どんな方法で発信されるの？私たちの受信方法は？**

→つくば市災害通知メール（要登録）、ラヂオつくば、緊急速報メール
　吾妻エリアでは防災行政無線や広報車、サイレンによる情報伝達はない。

→facebook やツイッターの導入も検討中

メールが使えるとは
限らない・・・

**こんな時どうするの？**

**○携帯もない、（停電で）テレビ、ラジオがない時の情報収集は？**

**・このような人に向けた情報発信は、どのような想定になっているの？**

→事前にラジオを備える、予備のバッテリーを用意するなど各自での対応をお願いするしかない。

**・人が集まる場所（お店？？）に行けば情報を得られる・・・？**

→市として、掲示を出す仕組みはなし。学校に情報を貼り出したりする可能性がある。
　吾妻地区の場合、学校が近いので、直接確認しに行った方が早いかもしれない。
　中学校に無線を設置する案もあるが、普段使わないため有事に使用出来るかという不安がある。

**結論は、**

**⇒情報収集ツール（携帯やラジオ）の電源確保は必須！**

学校に掲示されるかもしれないということも覚えておきましょう。

複数の受信手段、
ツールの併用で備
えることが大切で
すね！

次回は「避難所」についてお伝えします！

地域と学校が連携した防災教育モデル事業

## Event Calendar

| 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

✔7/14　引き渡し訓練・第 1 回 AZUMA 防災セミナー
✔8/2-3　防災キャンプ
✔9/19　第 2 回　AZUMA 防災セミナー「つくばで発生しうる災害を知る」
✔10/19　防災マップ探検隊　「AED 捜索大会」
✔12/12　第 3 回　AZUMA 防災セミナー「災害の実体験を知る」
✔12/13　被災地の学校関係者などとの交流を通じた地域交流会
✔12/18　第 4 回　AZUMA 防災セミナー「避難行動を疑似体験する」
□1/13　第 5 回　AZUMA 防災セミナー「避難所の衛生ってどうなってるの？」
□1/29　第 6 回　AZUMA 防災セミナー「非常食を考える」
□1/31　炊き出し訓練「もちつき」
AZUMA 防災・安全マップ作成
□2 月　第 7 回　AZUMA 防災セミナー「避難所開設を疑似体験する」

## 連載・吾妻小防災活動を支える"お父さん"からお話を聴く。

### 防災トリビア　＃3 避難所の広さ

長屋　和宏　（6 年　保護者）

もし、避難所で生活することになった場合、どのくらいの広さが与えられるかご存じですか？

もちろん、避難所の広さ、そこに来る人の数(災害事象)で、状況は変わりますが、皆さんがテレビなどで目にしたことのある、東日本大震災や新潟県中越地震の様子は、一人あたりおよそ 2㎡と言われています。

「団地間」と呼ばれるアパートやマンションなどの集合住宅用の畳(170cm×85cm)だと、約1．4畳分です。すなわち大人が横↗になって寝ることができる広さに、荷物などを置くスペースを加えた広さと言うことになりますね。

今、5 年生では、つくばスタイル科で「吾妻小避難所マップを作ろう」という取り組みをしています。子ども達にこの広さ(140cm×140cm の正方形を実際に見せてみると、"思ったより、広い！"という反応がある一方、実際に寝転がってみて"やっぱりこれくらい必要かな？"とイメージを膨らませていました。

やっぱり、体験してみることは大切ですね。

## 広報委員会編集

## 「吾妻小防災手帳」、作成中。２月初旬ごろ、完成予定！

AZUMA 学園安全・防災マップ作成についてはvol.4 でお伝えしましたが、これと並行して「吾妻小防災手帳」というものも作成しています。

作成の発端は、マップ作成に広報委員会が携わることになった後の最初の委員会。

「せっかく作るのだから、いざという時、頼りになる情報があるものがいいよね…」ということで話が進み、試行錯誤の結果、災害が起こったときに、子ども自身が見て確かめたり、近くにいる大人に見せて、安全を確保するための情報を掲載した【子ども版】、災害発生後の対応についてのヒントなど、大人が見るべき情報満載（？）の【大人版】＋防災マップが一緒になった「吾妻小防災手帳」の企画に至りました。

現在、おやじの会、その他大勢のみなさまの協力を得て、校正が進んでいます。

どんな手帳になるかはお楽しみ…

## 予告　JANUARY　EVENT LIST　　1 月も、防災関連のイベントがたくさん！

**1/13 TUE** 第 5 回 AZUMA 防災セミナー

**「避難所の衛生ってどうなってるの？」**

トイレの話題を中心に
避難所衛生と実事例

講師: 加藤　篤　氏
(NPO 法人　日本トイレ研究所)

**29 THU** 第 6 回 AZUMA 防災セミナー

**「非常食を考える」**

災害時の非常食の試食と被災地の事例

講師: 村関　尚志　氏
(中山環境エンジ株式会社)

**31 SAT**　炊き出し訓練

**「もちつき」**

茨城県消防本部より
地震体験車がきます！

おやじの会・風の子クラブと
協力して実施

### お知らせ

７月に発行がスタートしたこの「吾妻小防災辞典」ですが、Vol.7（1 月発行予定)、Vol.8（2 月発行予定)、そして「吾妻小防災手帳解説号」で終わりです！ぜひ、Event Calendar、Event List をチェックして防災事業を存分に活用しましょう!!!


記事に関するお問い合わせ、ご提案はこちらまで！吾妻小 PTA 広報委員会：　2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

# 吾妻小防災辞典 vol.7
2015.1.23

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会

**vol.7 Contents**



「ＡＺＵＭＡ防災セミナー」もあと２回

## 「地域みんなで防災を考えていく」ということ。

７月より開催されてきた「AZUMA 防災セミナー」。その対象は本校保護者のみでなく、地域の方も対象としています。それはなぜなのでしょう？

災害が発生した時、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人が共に取り組む「共助」、国や自治体などが取り組む「公助」が連携し、一体となることで被害を最小限にできると言われています。

「共助」について。災害が起きた時の吾妻小地区での取り組みを想像できますか？

現在、地区全体としての自主防災組織はなく、地域の人たちで防災に関する取り組みをするなど、吾妻地区での「共助」を意識する機会がほとんどないのが現状です。

AZUMA 防災セミナーは、最新の災害情報や、災害時の備えなどについてそれぞれの専門家よりお話を伺い、防災についての知識を深めることを目的としていますが、保護者および地域の皆さんに参加いただくことで、その認識を共有することも大きな目的としています。これまでのセミナーにはのべ 150 名を超える多くの方にご参加いただき、参加者の皆さんからは、"とても参考になった""これまで認識しなかったことを初めて考えた"といった声をお聞きしました。一方で、参加者が固定化している側面もあります。

吾妻地区での「共助」に向け、より多くの方と問題認識を共有するための裾野を広げていく必要があると考えています。

「災害発生時にこの地区で他の人と助け合いながら過ごすこと」を、そして、参加されている方々がその「共助のメンバーになりうること」を想像して、参加してみてはいかがでしょうか。

連載・吾妻小防災活動を支える"お父さん"からお話を聴く。

## ライフラインの備え　#3電気　庄司 学

（4 年・6 年　保護者）

今から 20 年前の阪神・淡路大震災の時に、調査で被災地を訪れたのですが、災害時の停電の真っ暗闇に、本当に怖い体験をしました。いかに電気にあふれた生活をおくっていたのか、痛感しました。阪神エリアにおいて、最大で、およそ 260 万軒の停電が発生しました。応急復旧には 6 日から 7 日かかりました。阪神・淡路大震災以降、この復旧日数を目安に停電が速やかに解消できるように、地震災害における停電対策が進められてきました。

この停電対策なのですが、電気をつくり、供給する事業者と、我々、電気のユーザーとの間に大きなギャップがあります。ユーザーは乾電池や懐中電灯の備えぐらいしか、なかなか実効力のある停電対策が思い浮かばず、潤沢に供給される電気の便利さに乗っかってきた感があります。事業者としては、発電・送電・変電という上位の電力系統の防災対策に万全を期した上で、一番の弱点は配電施設の防災対策であるとの認識でいました。このような事業者と電気のユーザーとの間の防災対策のスケール感のミスマッチが、電力施設は地震でも比較的大丈夫で復旧は速いという大きな油断を招いてしまったと考えています。

東日本大震災の際には関東圏を覆うようなかたちで、およそ 400 万戸で停電が発生しましたが、吾妻小の周辺は停電しませんでした。しかし、一時の避難所となった、その職員室のテレビで福島第 1 原子力発電所の全交流電源の停止という非常事態を目の当たりにすることになりました。知識では知っていた、ベントや輪番停電（計画停電）が現実となりました。もうすぐ、吾妻小の体育館には太陽光発電が設置され、自然エネルギーを災害時のバックアップ電源としても利用できるようになるそうです。電気のユーザーが自分で電気をつくり、運用するという自律型の電力供給の技術が普及し、電気の供給や需要の姿が今後 10 年ぐらいで大きく変わってしまうかもしれません。今から 20 年前の阪神・淡路大震災の時代には、携帯電話を持っている一般の人はほとんどいませんでした。



## 12 月の防災関連イベントのご報告

**12/12　第 3 回 AZUMA 防災セミナー**

**「災害の実体験を知る」**
岩手県山田町立山田南小学校 PTA
小原 裕毅 氏、佐藤 吉孝 氏

東日本大震災発生時、地域の人を受け入れる避難所としてはもちろん、消防本部、そして病院として機能した山田南小学校。

震災発生時の子どもたちの引き渡し、先生方による避難所の開設から、避難している人への運営のバトンタッチ、病院としての役割ゆえの苦労…。災害発生時の学校が果たす役割について考えることの多いお話でした。

**12/13 地域防災交流会**

**岩手県郷土芸能「虎舞」鑑賞**
岩手県立釜石商工高等学校
虎舞委員会

郷土芸能「虎舞」の踊り手である高校生 18 名による演舞を、地域の方と共に鑑賞しました。

前脚役、後脚役それぞれ飛んだり跳ねたり、迫力ある演舞を披露いただきました。

**12/18　第 4 回 AZUMA 防災セミナー**

**「災害対応を疑似体験する」**
筑波大学 システム情報系社会工学域助教
太田 尚孝 氏

ゲーム形式による防災教育教材「クロスロード」を通じた災害時や避難の行動に関するシミュレーションを行いました。

講師の先生からは、「災害をイメージすることは、アスリートがイメージトレーニングをすることとよく似ている」という説明があり、災害時に何が起こりうるのかを自分のこととして考えることの大切さが伝わってきました。

## 広報委員が聞きました！　#3　吾妻地区の避難所はどうなってるの？

今回の広報プロジェクトを担当する中で、素人である広報委員の中から出た素朴な疑問・質問をつくば市危機管理課にインタビューしました。（担当：つくば市危機管理課　鬼塚氏、2014/10/8 実施）

**避難所のおさらい**（第 1 回 AZUMA 防災セミナーより）

◎避難所の開設は原則として市長が、避難所担当職員を派遣して開設。
◎突発的な災害発生時には施設管理者(学校職員など)または自主防災組織代表者が開設。
◎避難所を運営する原則は、被災者の避難生活を基本とした「自主運営」すなわち、自分達で避難所を作っていかなければならない。
→つくば市内には 54 ヵ所の小中学校があり、災害発生時にそのすべてで市が運営を行っていくのは現実的に難しい。

**避難しようとした際、避難所が開いているかはどのように確認すればよい？**
→行くしかない。

**避難所が開所された際、運営ルールが予めあるの？**
→今のところ、特にありません。

自ら行動が原則
なのですね。

**帰宅困難者が多い場合近隣住人の避難場所割り振りはどのようになっている？**
→市は昨年 10 月常陽銀行と災害時の帰宅困難者の受け入れなどを含む協定を結びました。
（カピオ等も含め約 500 名収容可能）

**結論は…地域で協力することを日頃から！**
地域による避難所運営も視野に入れ、地域に住む方々が日頃から顔を合わせる機会があるといいですね。

## 予告　FEBRUARY EVENT LIST　防災関連イベントのしめくくり！

**1/29 THU** 第 6 回 AZUMA 防災セミナー
**「非常食を考える」**
災害時の非常食の試食と被災地の事例
講師: 村関 尚志 氏
(中山環境エンジ株式会社)

**31 SAT**　炊き出し訓練
**「もちつき」**
茨城県消防本部より
地震体験車がきます！
おやじの会・風の子クラブと
協力して実施

**2/21 SAT**　第 7 回 AZUMA 防災セミナー
**「避難所開設を疑似体験する」**
避難所開設の机上演習
防災士会つくばグループ

お知らせ

「吾妻小防災辞典」も来月発行の Vol.8 がラスト、イベントも残る２つ。寒い季節ですが、ぜひ足を運んでみませんか？

記事に関するお問い合わせ、ご提案はこちらまで！吾妻小 PTA 広報委員会： 2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

# 吾妻小防災辞典 vol.8 2015.3.3

「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」広報プロジェクト
発行　つくば AZUMA 学園防災モデル事業推進委員会
編集　吾妻小学校 PTA 広報委員会

Thank you！

全８回お付き合い下さり、ありがとうございました。
広報委員会企画編集「吾妻小防災手帳」。ぜひお役立てください！！→

事業のお手伝いをする中で、少しずつ芽生えた当事者意識・・「地域を知り、知識を得て初めて自分・家族が守れる！」事業終了後も、この気持ちを忘れずに（もちろん防災手帳の携帯も忘れません！！）。

## 01 夏に始まった　モデル事業もいよいよ終わりです。

7月に始まった、「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」も、まもなく終了します。
事業開始に併せて発行を開始した「吾妻小防災辞典」も、今号が最終号。この号は事業の総まとめ号と位置づけ、防災に関するクイズ「吾妻小防災検定」を織り交ぜながら、振り返って行きます。クイズのヒントは、
これまでの「吾妻小防災辞典」
http://www.azuma-pta.com/tokubetsu/h26/
もしくは茨城県教育委員会 HP
http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/syogai/bosai/
をご覧ください。答えは裏面にあります☺。

## 02 広報委員が聞きました①　校長先生のふりかえり。

今回の事業では、吾妻小が避難所になることを想定し、行政からの支援はどのように受けられるのか、地域の皆様とどのように連携していくのか等の課題に取り組んできました。児童にも地震等の災害に対して、防災マップを活用したり、避難所運営に進んで携わったりしながら自分の身を守っていこうとする意識が芽生えてきました。
被災地の高校生や住民の皆様との温かい交流を通し、私たちも勇気づけられる大変意義深いものとなりました。

## 03 これだけは、おさえておきたい。　吾妻小防災検定【初級編】答えは裏面に！

災害が発生。自宅が被災して、当面の生活が難しくなりました。避難所に入りたいと思います。

問１ 避難所を開設するのは誰でしょう？
問２ 避難所での生活は誰が動かしていくのでしょう？

2011.3.11 の吾妻小

## 04 ７月 14 日。防災モデル事業、幕開け。　こんなことから始めました。

### 小中合同引き渡し訓練

防災モデル事業は、「小中合同引き渡し訓練」からスタートしました。今回のポイントは「小中合同」と「引き渡しカード」。
小・中にきょうだいがいる場合、中学生から先に引き渡すことで小学生の負担を減らす（＝中学校まで歩かなくてもよい）目的があります。
「引き渡しカード」の整備は、確実に子どもたちを保護者のみなさんに返すことにつながります。

## 05 広報委員が聞きました②　PTA 会長・山中さんのふりかえり

あの日以来、大切な子どもたちの命を守ることしかありませんでした。
テーマ「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」－学校・家庭・地域が横につながり、大人と子どもが縦につながり、地域と子どもたちがつながって、地域防災の担い手としての子どもたちを育てるために、「つながり」が大切です。

## 06 吾妻小防災活動といえば、コレ！　こんなことをやりました。

### 防災キャンプ

８月２日・３日に吾妻中と２度目の防災キャンプを合同で開催！
災害発生時、子どもたちが学校に避難して宿泊する可能性がけっして０ではありません。

発災後に求められる心構えや技能を、具体的にイメージ・体験することで、子どもたちの危機管理能力を高める取り組みです。

## 07 ちょっと難しくなります。　吾妻小防災検定【中級編】答えは裏面に！

最近の防災対策では、東日本大震災を上回るような災害で、物資の枯渇することを想定し、「各家庭で７日間程度は生き延びるための備蓄」が求められています。

問３ 例えば５人家族が、行政による支援までの７日間は備蓄（１日３食）で生き延びていくためには、何食分の備蓄が必要でしょう。

第６回 AZUMA 防災セミナー「非常食を考える」

## 08 地域で防災を学び、スキルを身につけるために。　こんなことも、やりました。

### AZUMA 防災セミナー

全7回。災害について知り、備えるための講義から、避難所開設の机上訓練、炊き出しに防災食の試食まで、多彩な講師を招いて、開催されました。このセミナーの特徴は、地域の方に開放しているということ。ふだんから地域の方々が顔を合わせ

いざという時に助け合うことができる関係をつくっておくこと。これは、まちの歴史が浅い吾妻地区ではとても大切なことです。

## 09 広報委員が聞きました③　学校地域防災力強化委員会地域コーディネーター　長屋さんのふりかえり

モデル事業を進めるにあたって、心がけたことは防災を身近に感じていただくこと。
その意味合いは二つありました。
一つは、災害の遭遇は人ごとではないと言うこと。災害列島である日本に住んでいる限り様々災害が起こりうることを知っていただきたいと思いました。
もう一つは、災害から身を守ることは、特別なことではなく、普段の生活の延長線であること。
これからも、この二つをわかりやすく伝えていきたいです。

## 10 被災経験を地域で学び、共有する。　こんな方をお呼びしました。

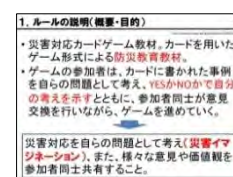
### 東日本大震災　被災地域との交流会

岩手県山田町立山田南小の保護者の方を２日間お呼びし、東日本大震災時のまちや学校の様子を教えていただきました。

虎舞という岩手県釜石市に伝わる郷土芸能を、鑑賞しました。演じて下さったのは、岩手県立釜石商工高等学校生。「吾妻地区のコミュニティの輪が広がっていきますように」との想いから、地域の方を招待しました。

## 11 この問題、解けますか？　吾妻小防災検定【上級編】答えは裏面に！

もしもの時を想像してみてください。
大地震後、小学校へ行っている我が子を迎えに行くが、途中で人が生き埋めになっているのを発見。他に人はいません。しかし、我が子も気になります。

問４ まず目の前の人を助けますか？
YES(助ける) or NO(わが子優先)
あなたならどうしますか？

第４回 AZUMA 防災セミナー「防災ゲーム　クロスロード」

## 12 災害に「知」で備えるために、　こんなものをつくりました。

### ケースメソッド、安全・防災マップ

来るべき災害に知識、体制の両面で備えるとともに、今後の訓練等に活用するマニュアルや防災教材の整備を行うことを目的に、以下を行いました。
★学校防災・安全マップの作成
★危機管理マニュアルの改訂
★東日本大震災の避難所開設、運営にかかる経験に基づくケースメソッドの作成

記事に関するお問い合わせ、ご感想はこちらまで！吾妻小 PTA 広報委員会：2014koho@azumaes.sakura.ne.jp

吾妻小防災検定 解答

**【初級編】**

**問１**

避難所開設の原則は、「市長が担当職員を派遣して開設」となっています。

しかし、突発的な災害発生時は、「学校職員などの施設管理者もしくは自主防災組織の代表が開設」することができます。

**問２**

避難所の運営は、被災者を中心とした「自主運営」が大原則です。

自分たちの事は自分たちで、です。

**【中級編】**

**問３**

５(人家族)×７(日間)×３(食)＝１０５食分　と、考えた方、そんなに頑張らなくても大丈夫です。

食事で余分に作った物は残っていませんか？、普段からインスタント食品やお菓子類はストックされていませんか？、冷蔵庫も空っぽではないですよね。

普段の生活サイクルでの食料を踏まえ、足らない分だけ備蓄すれば、その時は乗り切れます。ただし、災害時でも乾いた食事ばかりでは気持ちも落ち込んでしまいます。災害時にこそ元気が出るような食事の備蓄を考えましょう。

**【上級編】**

**問４**

どちらも正解です。

これは、平成７年に阪神・淡路大震災が発生した際に、被災者が実際に経験した修羅場体験でのジレンマを元に作られた設問です。

災害が発生したときには、通常の生活では考えられないような判断が求められます。

普段から様々なことを想像し、頭の体操をしておくと、もしもの時に役立ちます。

## 「吾妻小防災手帳の使い方」授業

防災能力の向上コンテンツとして作成した「防災手帳」を用い、吾妻小１学年、吾妻中７学年では、防災手帳の使い方や災害に対する備えについての授業を行いました。

授業の実施あたっては、防災手帳の製作に協力した、「吾妻小おやじの会」のメンバーがゲストティーチャー(GT)を務めました。また、当日は授業参観として保護者はもちろん地域の方にも参観頂き、防災手帳の普及にも努めました。以下、１学年での授業の様子です。

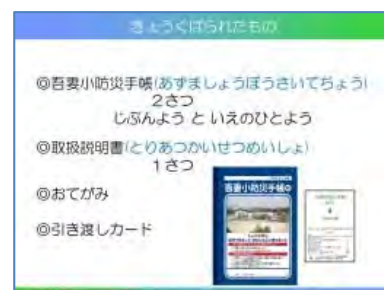
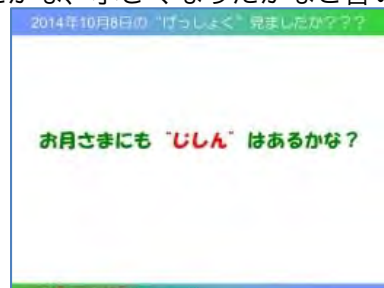
先生　：　今日は防災教室です。
吾妻小学校のお父さん方がいろいろな事を教えて下さいます。
しっかりお勉強して、何かあった時に備えてほしいと思います。
GT　：　おはようございます。よろしくお願いします。
今日は防災の話をしたいと思います。

去年の 10 月、お月様が大きくなったり、小さくなったりする月食を見た人？
子ども　：　(ぱらぱらと手があがる。)
GT　：　僕も子どもと一緒に 10 分おきにどれぐらい大きくなったかな、小さくなったかなと言いながら見ました。
みんな、「地震」は知ってる？

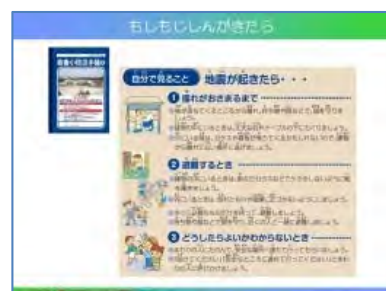
2014年10月8日の "げっしょく" 見ましたか???
お月さまにも "じしん" はあるかな？

子ども　：　うん。何回も(地震にあったことが)ある。
GT　：　じゃあ、みんなに質問するよ。
お月様にも地震はあるでしょうか？
子ども　：　(ある、ない、それぞれ叫ぶ)
GT　：　あると思う人！
子ども　：　多分ある！(大多数の子が挙手)
GT　：　それでは、ないと思う人。
子ども　：　(一人挙手)
GT　：　答えを言うね。実はお月様にも地震があります。

子ども　：　わーい！
GT　：　でも、あってもなくてもいいんだよ。誰も住んでいないから、誰も困らないもん。地球だから困るんです。うさぎさんは困っているかもしれないけどね。
子ども　：　(笑い)
GT　：　それでは、防災手帳の話をしますね。
袋を開けてみて下さい。(防災手帳２冊、取扱説明書１冊が袋詰めしてあるものをあらかじめ配布)
中にあるものを確認します。
まず、袋。表と裏、青と灰色になっているんだけど同じものが(防災手帳)２つ。あと、小さいやつ(取扱説明書)。中には全部で３つ入っています。

後は先生からお手紙と(防災手帳配布のお知らせ)と緑色の「引き渡しカード」というのが後から渡されます。
今日、おうちに帰ったら、今の３つと引き渡しカード、お手紙を一緒におうちの人に渡してください。

GT　今使うのは一つだけなので、残りは机の中にしまってください。

これの見方を説明しますね。こっちが青くて、こっち(反対側)が灰色。
みんなが読むのは青い方なので、青い方を上にして机の上に置いて下さい。
そして開きます。そうするとこの絵(自分で見ることのページ)が出てきます。

さっきお話ししたように、ここがお月様だったら、いくら地震が起こっても構わないけど、地球では、地震でみんなが“けが”をしないように地震が起こったときにどうしてほしいかということがここに書いてあります。
でも、ここをみんなで読むと、それだけで授業が終わっちゃうから、おうちに帰ったらおうちの人と一緒に読んでくださいね。
いっぱい説明が書いてありますが、地震が来たら何から身を守ったらいいのかを教えますね。

地震が起きたら上から何かがおっこちてきたりします。何かが倒れてきたりするかもしれません。それから、飛んで来たり、動いて来たりするかもしれません。窓ガラスが割れたりするかもしれません。そういうものから身を守ってください。ケガをしないようにしてください。

でもこんないっぱいあるのに、どうしたらいいんだろう。こんなにいっぱい手帳に書いてあることを覚えてられないよね、って思うので、すっげー簡単なものを１つ教えてあげます。
「手帳に書いてあることを思い出せない」、「すぐにどうしていいかわからない」、という時のために、これだけ覚えておいてほしいのがこれです。
「姿勢を引くして、頭を守って、地震がおさまるまでじっとする」。これだけ。
OK?みんなできる？

子ども　：　(みんな手をあげる)
GT　：　みんな優秀ですね。
じゃあ、お部屋の中で地震が起こったときの話をします。
これ、みんなのお部屋もこんな感じ？

子ども　：　ぜんぜん違う！
GT　：　全然違う？まず、どこが違う？
子ども　：　(それぞれに意見を言う)
GT　：　これは、おうちのお部屋の一つね。お父さんのお部屋でもいいし…。
それでは、みんなはこのお部屋にいるときに、地震がぐらぐらぐらーって来ました。どこが危なそう？
子ども　：　棚！
GT　：　棚がどうなりそう？
子ども　：　棚が揺れた時に本が落ちてきそう。

GT　：　あとは？

子ども　：　窓が割れそう。

GT　：　あと危ないところはどこ？

子ども　：　恐竜が落ちてきそう。

GT　：　頭にぶつけちゃうかも。これは、すっげーカタイ恐竜かもしれないもんね。

子ども　：　ドアが閉まって出られなくなる。

GT　：　ドアがゆがんで出られなくなっちゃうかもしれない？

(一同)　：　おー。すごい意見だな。

GT　：　あと、ほかは？

子ども　：　壁紙(額縁の絵)が貼ってあるところ。落ちそう。

GT　：　時計とかも落ちてきそうだよね。

子ども　：　テレビ。

GT　：　テレビ、何で？

子ども　：　落っこちそう。

(緊急地震速報の音・子どもたち驚く)

GT　：　地震来るかもしれない！<br>さっきやったよね。

子ども　：　みんな机の下にもぐる。<br>15 秒前…。5…4…3…2…1<br>(何も起こらない)

GT　：　あれ、大丈夫だったみたい…。

みんなこれ(低姿勢で頭を守る)、できたよね。

GT　：　(お部屋の話に戻って)<br>みんなさっき、みんなの家のお部屋はこんなお部屋じゃないって言ったでしょ。だからおうちに帰ったら、おうちのお部屋を眺めてみて、「これが危ない、あれが危ない」と、お父さんとお母さんとお話をしてください。いい？

防災手帳のお話の続きをします。<br>今日、防災手帳でやってほしいのは、２つ。一つ目はみんなのおうちを地図に書いて下さい。まず防災手帳を全部開きます。

子ども　：　どこかわからないー。

GT　　わからない？<br>分からない人はこれから緑の服を着たおじさんたちが手伝ってくれるから、それを書いて下さい。<br>そして、もう一つ。<br>エキスポセンター、ロケットが書いてあるのが分かりますか？まん中の下あたりです。<br>あった？<br>これ、みんなの見ているロケットと一緒？

子ども　：　色が違う。

GT　：　色が違うでしょ？<br>これは塗り忘れたわけじゃないの。わざと塗ってないの。<br>みんなが学校に来る途中とか、学校から帰る時に、ロケットがどんなふうに見えるのか、色を塗ってほしいの。

子ども　：　えっ？

GT　：　考えたことない？

子ども　：　オレンジ色！
GT　：　なので、どんなふうに見えているか教えてください。
まず、みんなのおうちの位置を書いてほしいんだけど、おじさんたちが手伝いに行くまでの間は、色塗ってて。どんな風な色か。
子ども　：　僕(家の)場所、わかった。
GT　：　わかったら書いてみて。
では、これから自分のおうちの位置を書きますから、鉛筆と色鉛筆を出して下さい。
始めて下さーい。
お見えになっているお父さん、お母さんも、お手伝いしてくださるとありがたいです。
子ども　：　(作業に入る)
GT　：　ごめん、重要なことを言わなかった！
おうちのマークはこれです。これを書いて下さい。
子ども　：　(作業)
GT　：　みんなこっち向いて下さい。
おうちから学校まで、いつもどうやって来ているかわかる？
子ども　：　わかるー。歩いて。バスで。(いろいろな意見)
GT　：　間違っているかもしれないけど、こうやって来ているんじゃないかなって線を引いて下さい。ロケットとかいつもどっちにあるか、考えてみて、線を引いてみて下さい。

お願いが一つあるんだけど、今、(手帳を)２つ渡したよね。開いてない方は書かないで。
子ども　：　どうして？
GT　：　おうちに帰ったら、こっちに、お父さんとお母さんに書いてもらいます。それで、自分が書いたのがあっていたか、後で答え合わせをおうちでしてほしいから。
こっちにも書いちゃうと、両方ともあっているかもしれないし、間違っているかもしれないし。
それでは、どうやって学校に来ているか、自分で線を引いてみましょう。
色鉛筆で！
子ども　：　何色で？
GT　：　何色でもいいよ。
：　(作業にもどる)
GT　：　じゃあ、こっち向いて！出来た？
子ども　：　出来た！
GT　：　さっきもお願いしたけど、こっち書いたよね。
なので、こっちはお父さんとお母さんに書いてもらって、今日、答え合わせをしてください。いいですか？
間違っていたら、こっち、直しておいてね。
間違ったままだと、間違った道を来ることになっちゃうからね。
GT　：　みんな、学校に来るまでの道を書けたね。
じゃあ、質問をします。
朝、学校に来る途中の話です。
家を出て、学校に行く途中、大きな地震が起きました。みんなランドセルもって、学校に行く途中。道を歩いているところです。
そんな時はどうするんだっけ？
子ども　：　頭を守って、じっとする。
GT　：　そうだね。
で、地震がおさまったら、道路には気が倒れたり物が落ちてきたりしています。でも、大丈夫でした。ケガをしませんでした。
みんなは、学校があるかわからないから、帰っちゃう？それともそのまま学校に行く？

家に帰る人？

子ども　：　(パラパラと挙手)
近かったら学校に行く。

GT　：　じゃあ、学校に行く人？

子ども　：　(ちらほら手が挙がる)

GT　：　そうだね、学校が近かったら、学校かもしれないしね。

子ども　：　コンビニとかに入る。お友達のおうちに入る。

GT　：　今、おうちに帰るって言った人も、学校に行くって言った人も、コンビニに入るって言った人も、お友達のおうちに入るって言った人も全部正解。
だけど、お父さんとお母さんが「うちの子どうしたんだろう？」って探しに来ます。どこにいるかわからないと、とっても困ります。自分はコンビニに入って「もう、大丈夫。アイスクリームももらったし…」となっていても、お父さんとお母さん、とっても心配するかもしれません。
「お友達のおうちに入って、もう安心」と思っても、お父さんとお母さんは心配するかもしれません。
だから、学校に行く、一人の時に地震が起きたらどうするかは、おうちの人とお話をしてください。で、それを書くところがあります。
ここを、おうちの人と相談して、お話をして、「僕が学校に行く時に地震に遭った時に、僕はどうすればいい?そのまま学校に行った方がいい？おうちに帰ってきた方がいい？ってお話をしてみて下さい。
おうちによってはお父さんもお母さんも働いていて、みんなは知らないけど、みんなが家を出た後、お仕事に行っちゃうおうちもあるかもしれません。そうすると、地震が起こって家に帰ったら、鍵がかかっていて、入れない！ってなるかもしれないから、遠くても、学校に行く約束の方がいいかもしれない。
だから、ここはおうちの人と相談をして、書いておいてください。
できる人手を挙げて！

子ども　：　(みんな手があがる)

GT　：　みんな偉ーい！

子ども　：　やることいっぱいあるー。

GT　：　やることいっぱいあるけど、最後、これだけ。
これを今日、おうちにもって帰るよね。書いたらみんな、これはランドセルに入れておいてね。いい？困ったら、近くの人にこれを見せて、「僕はどうすればいいですか？」と。そうすれば大人の人は見てくれるから。中学生でも見てくれるから。上級生も見てくれる。
だから、分からなくなったら、「僕はどうすればいいですか」って見てもらってください。
出来る人？

子ども　：　(みんなの手があがる)

GT　：　おじさん、今日、とても安心…。
今日のおじさんたちのお話は、これで最後です。どうもありがとうございました。

担任　：　今日、いろんなことを教わりましたよね。
もし、災害がおきたときに、今日教わった中で先生はやっぱり一番最初に教えてもらった、姿勢を低くして、頭を守って、っていうのが、大事かなって思いました。それならみんな簡単だよね。何も物がなくてもできるよね。
おうちに帰ったら、今日のことをよくお話をして、おうちの人と相談をしてください。いいですか？

子ども　：　はい。

担任　：　今日はありがとうございました。